

品川区いじめ対策委員会（第2回）

議事録要旨

1 日時

平成30年10月9日（火）午前9時00分から午前11時00分まで

2 会場

品川区立第二延山小学校

3 審議

- (1) 学校案内
- (2) 授業参観
- (3) 学校におけるいじめ防止対策の取組について
- (4) 協議
- (5) まとめ

4 出席者

斎藤尚也委員長、池田幹雄委員、岡本淳子委員、新藤こずえ委員

5 発言要旨

(1) 学校案内

＜第二延山小学校校長の説明により、学校内の見学＞

(2) 授業参観

＜第二延山小学校6年生の市民科の授業を見学＞

(3) 学校におけるいじめ防止対策の取組について

＜第二延山小学校長、生活指導主任より、学校のいじめ対策について＞

- 教員がきちんと子どもの様子を見て把握する。
- 情報共有する場面を作り、そこで確実に情報の共有を図っていく。子どもに関わるさまざまな人間が、それぞれアンテナを張って、日常的に見ていく環境作り、意識作りが重要だと考えている。
金曜日の生活指導夕会にて学校全体で情報共有する。共有する情報は大きい小さい関係なく気づいたことを細かく出していく。教員の他にスマイルの担当、用務主事などにも参加してもらう。
- 今回の授業のねらいや概略などについても説明があった。

(4) 協議

○ 授業の場面から

(良かった点)

- ・授業の組み立てが良かった。3つのクラスでうまく教材をシェアしながら、同じテーマについて、担任同士で情報共有しながら授業を組み立てていた。指導にあたっては、学習は先生の力量差がでてしまう部分もあるので、共通の教材を使用することで、伝えたいことを平準化する取り組みは他校などで参考にしやすい。
- ・授業の中で、子どもたちに考えさせ、自身の思いを表現するように促していた。子どもたちの心の中まできちんと向き合って指導者やクラスメイトが気付く、感じるやり取りができていた。
- ・授業で SST を取り入れていることに驚いた。子どもはいじめが悪いと分かってやっっているということもあるという調査もあり、ある程度規範を示すことも大事だが、いじめられた時にどう対処するのか、対処能力に力点をおいての取組も今の子どもたちにあっている。

(今後の課題)

- ・いじめというのは人権の問題になるが、事例ごとにもう少し、掘り下げた被害者側の心の動き、どの場面でどの段階でいじめになるのか掘り下げいく場面も必要。
 - ・どこからいじめになるかというのは、やはり難しい問題。人権感覚というのは、すべての行為のもとにあることだと思うので、その辺の部分をどれくらい育てられるかというあたりも重要になってくる。

○ まとめ

重要なのは、指導者が伝えたい、人権感覚とか、いじめられる側は悪くないという感覚を子どもの本当の意味で掴んでいく、実感していくこと。実際はこれには個人差があり、また、その子の日常生活で掴んでいくことは大変なこと。場合によっては掴めない家庭環境があったり、掴み取るのが苦手な子どももいるので、今回の授業のように、意図的に集団で働きかけて、友達の見聞を聞いたりしながら、自分の感覚を磨いていくきっかけにしていく。時間をかけて日常生活でも経過を見ていくという今回の取り組みには可能性を感じた。今後も、区内学校の参考になるような、授業研究などを委員の方の協力も得ながら進めていきたい。